

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 27 年度

市町村名	蕨市					
提案事業名	ぐるっと埼玉サイクルネットワーク「南部まちなめぐりルート」活性化事業					
事業期間	26 年度 ~ 26 年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 歴史民俗資料館の入館者数					
	(成果検証の具体的な方法) 歴史民俗資料館の年間入館者数により、南部まちなめぐりルート並びにまちの活性化を測る。					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	C
	従前値 (25年度)	35,167人	目標値 (26年度)	35,667人	実績値 (26年度)	30,246人
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項		ホームページ				

【事業効果の整理・原因分析】

平成26年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 南町桜並木保存事業	○	桜の樹勢回復のため、1)日当たり・風通しの確保(43本、約200m)土壌改良・エアレーション設置(12本、約50m)を行い、南町桜並木の保存を図った。毎年桜まつりが開催される市の観光拠点である南町桜並木の保存・活性化により「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化につながったと考えられる。
② 歴史民俗資料館魅力発信事業	△	オータムギャラリー「當摩 源一郎 Water - Colour Exhibition」においてカタログを4000部作成・配布した。また、特別展「アトリエWarabi Vol.1 一織・木彫・GLASS」展において図録を3000部作成・配布した。オータムギャラリー・特別展の成功により「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化につながったと考えられる。ただし、平成26年12月24日から平成27年2月9日まで行われた空調設備改修工事に伴い、臨時休館したため目標値を下回った。
③ 自転車交通安全推進事業	○	交通ルール・マナーを正しく理解することを目的とした自転車の安全運転の啓発リーフレットを市内の中学生に1,546枚、高校生に2,576枚配布し、環境に優しく、健康づくりに役立つ自転車の安全利用の促進を図った。市内の交通安全意識が向上することで、自転車の利用促進につながり、「南部まちなめぐりルート」並びにまち全体の活性化に寄与したと考えられる。
④ 南部まちなめぐりルートPR事業	○	南部まちなめぐりルートをPRするため、以下の取り組みを行った。 ・南部まちなめぐりルートに関するチラシ・ポスターを作成し、歴史民俗資料館を含む市公共施設などに配布・掲示した。 ・公民館が主催したサイクリング関連のイベントで、上記チラシの配布とルート利用の呼びかけを行った。 ・広報蕨2月号のお知らせに、南部まちなめぐりルートの情報を掲載した。 南部まちなめぐりルートの周知が図られることで、当該ルート並びにまち全体の活性化につながったと考えられる。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	歴史民俗資料館のオータムギャラリーでは9,307名の入館者、特別展では8,298名の入館者があり、十分な成果が認められた。
実施事業について 成果が不十分である点	歴史民俗資料館が空調設備改修工事により平成26年12月24日から平成27年2月9日まで臨時休館したため、成果指標である年度を通しての歴史民俗資料館の入館者数は目標値を下回った。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	ルート上に存在する「見どころスポット」でもある地域資源の保存と活性化、自転車の安全利用の啓発をさらに進めるとともに、ルートの積極的なPRを行うことで、「南部まちめぐりルート」並びにまちの活性化を推進する

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない